

# キッツグループの価値創造

## 価値創造プロセス

## キッツ宣言

KITZ' Statement of Corporate Mission

わたしたちは、  
流体制御技術と材料開発で社会インフラを支え、  
ゆたかな地球環境と持続可能な未来を創造していきます

*We strive to build a robust global environment and sustainable future by supporting societal infrastructure through our advancements in fluid control technologies and materials.*

## 行動指針

Action Guide

### Do it KITZ Way

- Do it True (誠実・真実)
- Do it Now (スピード・タイムリー)
- Do it New (創造力・チャレンジ)

### 外部環境の変化・社会課題

**E**

- ・温暖化に伴う気候変動
- ・環境負荷の低減
- ・脱炭素

**S**

- ・生産年齢人口の減少
- ・AI、IoT化
- ・ダイバーシティ

**G**

- ・リスクマネジメント
- ・コンプライアンス
- ・腐敗防止

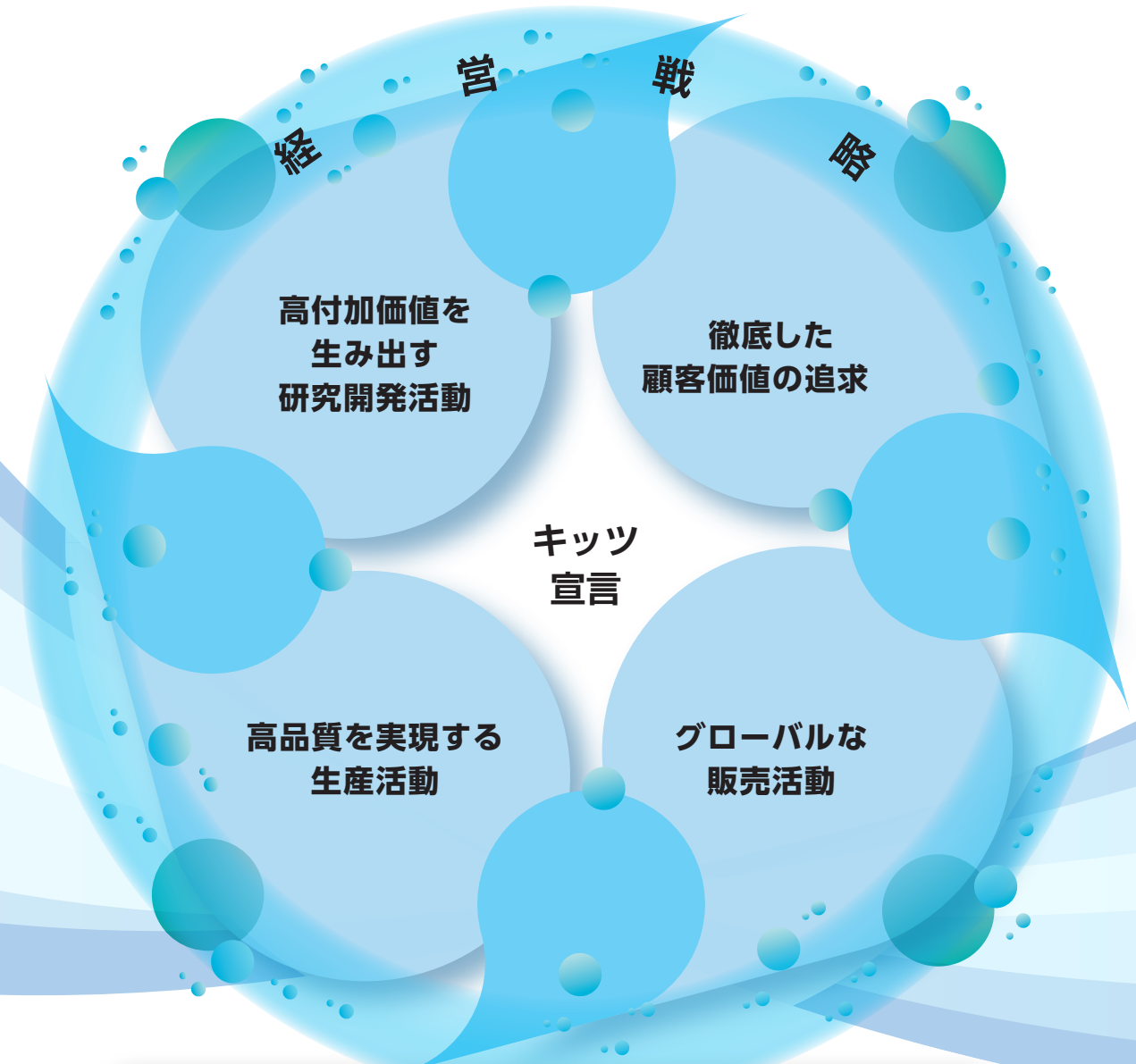
価値創造プロセスを支える経営資源

価値創造プロセス

アウトプット

創出価値

- あらゆるフィールドに多彩な商品を提供
- 素材からの一貫生産体制
- グローバルに広がる販売ネットワーク
- 挑戦する企業風土を担う多彩な人財
- 環境に配慮したモノづくり



「流す」「止める」「絞る」のあらゆるニーズに、  
高品質な商品とサービスを提供

### Core市場

- 建築設備
- 石油化学
- 水処理
- 機械装置

### Growth市場

- 半導体装置
- 半導体材料 (フィルター)
- 機能性化学
- 水素/低炭素

### 新規事業

- ウォーターソリューション
- メンテナンスソリューション

- 水やエネルギー等の安定供給を支え、安心して暮らせる環境を創造
- 顧客・サプライヤーの信頼、地域社会との共生
- 多様な人財の育成と高いモチベーションを保てる企業風土の醸成
- 環境負荷を抑えた事業活動と環境マネジメント体制の強化
- 持続的な株主価値の向上

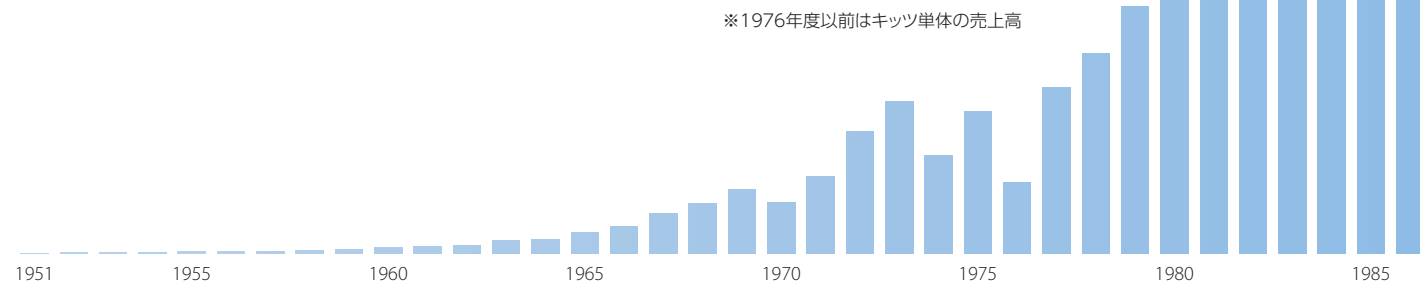
事業を支える基盤  
サステナビリティ    コーポレート・ガバナンス    財務基盤



# 成長の軌跡

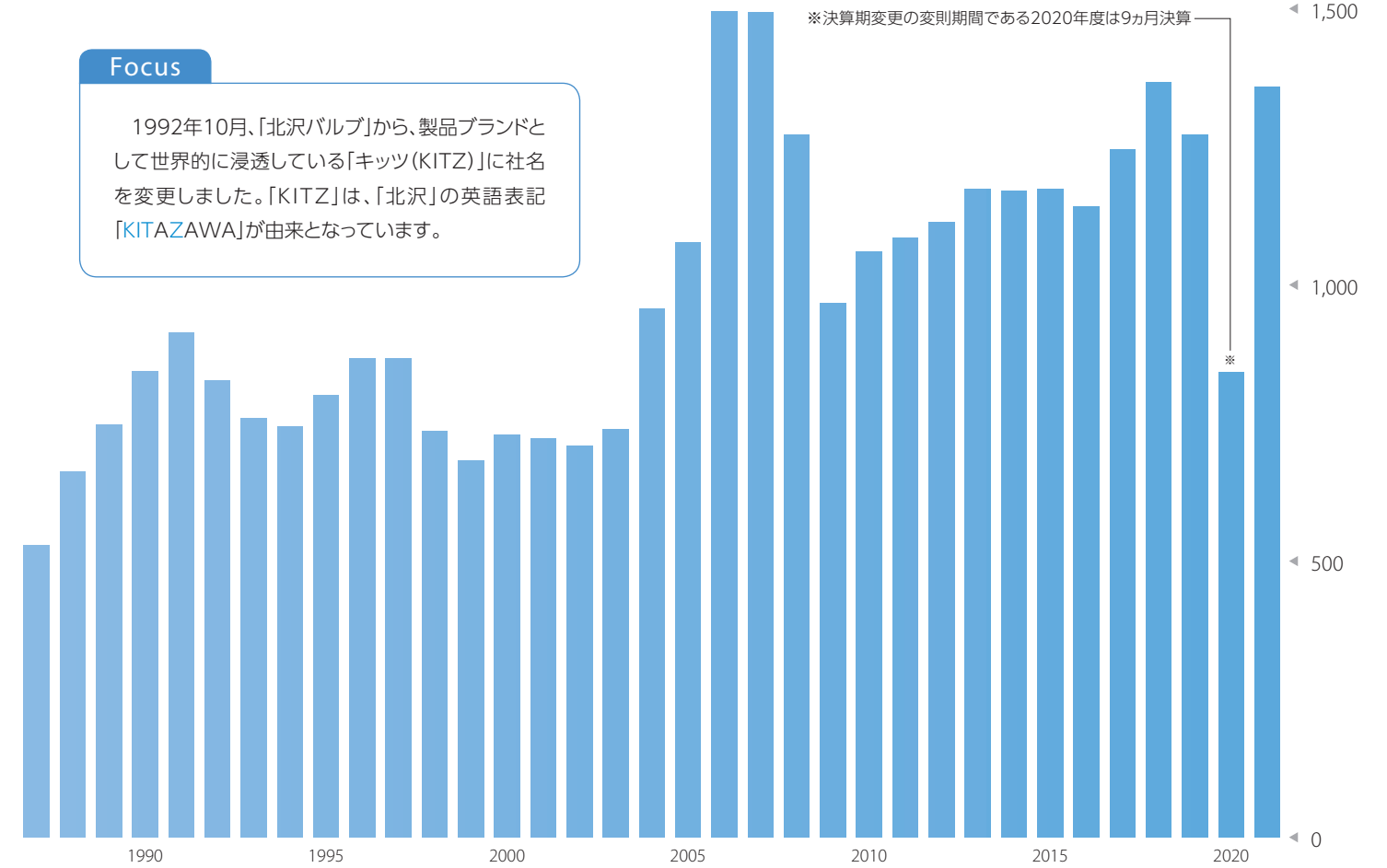
1951年、日本が敗戦の混乱期から高度経済成長時代へと移りつつある中、北澤製作所(現キッツ)が創業しました。創業者 北澤利男(1917~1997年)の理念により、素材からの一貫生産を基本に、鑄造から加工・組立・検査・出荷等すべての工程を社内で行い、さらに、きめ細かい販売サービスやアフターフォローをお客様に提供する体制を築いてまいりました。こうした「より良い品質」へのこだわりが今日まで脈々と受け継がれ、私たちキッツグループの源流となっています。

現在では、総合バルブメーカーとして、あらゆるフィールドに多彩な商品を提供する世界有数の企業グループに成長しました。



## Focus

1992年10月、「北沢バルブ」から、製品ブランドとして世界的に浸透している「キッツ(KITZ)」に社名を変更しました。「KITZ」は、「北沢」の英語表記「KITAZAWA」が由来となっています。



初代社長  
北澤 利男  
(在任期間:1951~1985年)



2代目社長  
清水 雄輔  
(在任期間:1985~2001年)



3代目社長  
小林 公雄  
(在任期間:2001~2008年)



4代目社長  
堀田 康之  
(在任期間:2008~2021年)



5代目社長  
河野 誠  
(在任期間:2021年~)

### 創業 — 生産・販売体制を構築

- 1951年
  - 北澤利男が株式会社北澤製作所を創業
  - 長坂工場が完成 青銅製バルブの製造・販売を開始
- 1952年
  - 全国代理店会を組織し 全国市場への流通体制を確立
- 1959年
  - 黄銅棒の生産を開始

### 品種を拡大、総合バルブメーカーに

- 1962年
  - 社名を株式会社北澤バルブに変更
- 1967年
  - ダクタイル鑄鉄製バルブ、ステンレス鋼製バルブの製造・販売を開始
- 1968年
  - バタフライバルブの製造・販売を開始
- 1969年
  - 鑄鉄製バルブの製造・販売を開始
- 1974年
  - 鑄鋼製バルブの製造・販売を開始
- 1975年
  - 社名を株式会社北沢バルブに変更
- 1977年
  - 東京証券取引所市場第二部に上場
- 1978年
  - KITZ**が商標登録となる

### 信頼のブランド「KITZ」を確立

- 1989年
  - 日本企業で最初に長坂工場と伊那工場が「ISO9001」の認証を取得
- 1991年
  - スペインのボールバルブメーカーISO社(現KITZ Corporation of Europe, S.A.)がキッツグループに入る

- 1992年
  - 社名を株式会社キッツに変更、千葉・幕張新都心に本社を移転
- 1995年
  - 水道用バルブメーカー株式会社清水合金製作所がキッツグループに入る

### 選択と集中を加速、グローバル化を推進

- 2001年
  - 旧ベンカングループから 半導体関連事業を譲り受ける
- 2002年
  - 保有資産の減損と不振事業の再構築を実行
- 2004年
  - 伸銅品事業及びMF(マイクロフィルター)事業を分社
- 2009年
  - ドイツのボールバルブメーカー Perrin GmbHがキッツグループに入る
- 2015年
  - インドの工業用バルブメーカー Micro Pneumatics Pvt. Ltd. がキッツグループに入る
  - ブラジルの工業用ボールバルブメーカー Metalúrgica Golden Art's Ltda.がキッツグループに入る
- 2018年
  - 韓国の工業用バタフライバルブメーカー Cephos Pipelines Corp.がキッツグループに入る

## History



1951年 創業当時の長坂工場。11人でのスタートは、企業というより町工場というにふさわしい門出であった。



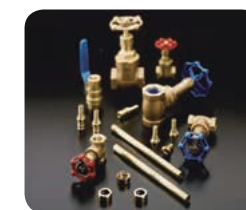
1962年 わが国で初めて黄銅鍛造バルブFH、FSの製造・販売を開始。



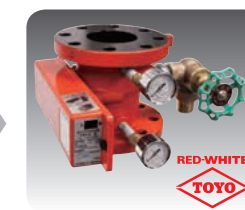
1980年 青銅製バルブのハンドルデザインに「菊ハンドル」を採用(P28 Focusをご覧ください)。



1984年 東京証券取引所市場第一部に上場。



1999年 環境配慮型鉛レス快削性黄銅合金・青銅合金「KEEPALLOY(キーパロイ)」を発表。



2004年 東洋バルブ株式会社がキッツグループに入る。



2012年 水素ステーション用超高压ボールバルブを開発、販売を開始。



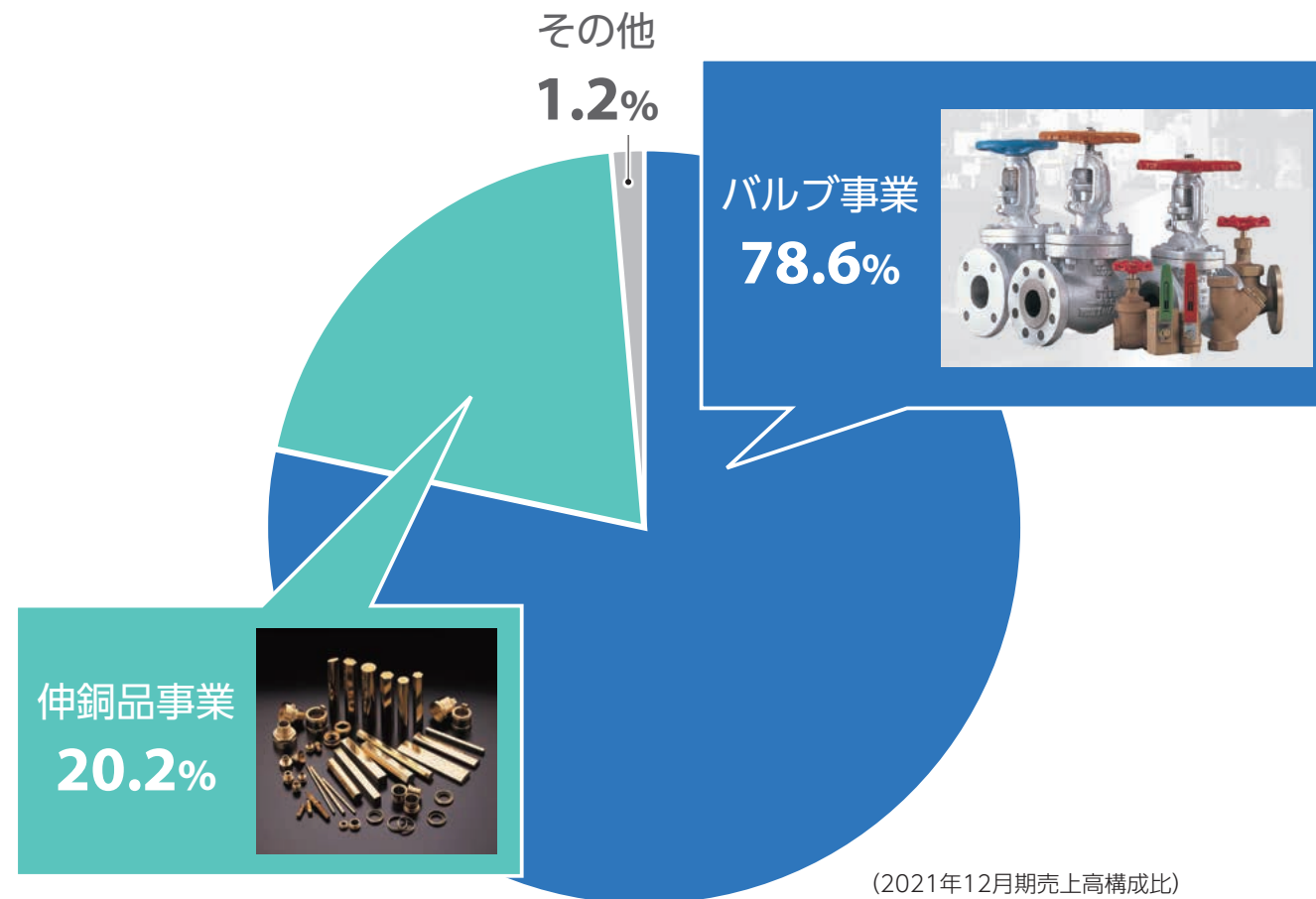
2019年 2019年3月期の連結営業利益が117億13百万円となり、過去最高益を更新。



# キッツグループの事業概要

キッツグループは、流体制御機器であるバルブを中心に、継手、浄水器及び工業フィルターを製造・販売するバルブ事業、水栓金具やガス機器、家電製品の部材等の素材として使用される黄銅棒の製造・販売を行う伸銅品事業、ホテル等を運営するその他の事業を展開しています。

これからもバルブを中心とした流体制御機器の総合メーカーとしてさらなる成長を目指します。



連結売上高:1,357億90百万円  
 海外売上高比率:30.4%  
 連結社員数:5,153人(男女構成比 男性72.7% 女性27.3%)  
 連結子会社数:36社  
 グローバルネットワーク(拠点):18カ国  
 (2021年12月31日現在)

## バルブ事業

売上高構成比 **78.6%**

### 強み

#### 総合バルブメーカーとして幅広く製品を提供

多くのバルブメーカーが限られた市場・分野に特化したり、材質や形状を絞って製品を製造・販売したりする中で、キッツグループは、青銅・黄銅やステンレス鋼、鋳鉄、鋳鋼等の様々な材質や形状のラインナップを有し、私たちの生活空間から産業分野まで、総合バルブメーカーとしてあらゆるフィールドに多彩な製品を提供しています。

#### 高品質のKITZブランドを確立

グループ内に、バルブの主要材料に対応する鑄造設備を持ち、素材の選別から鑄造、加工、組立、検査までの一貫生産体制を基本に製品づくりを行っています。素材からの品質保証体制を築くことにより、「KITZ」ブランドは、信頼のブランドとしての地位を確立しています。

#### 高い市場占有率

国内市場においては、日本全国をカバーする代理店網により、お客様の声に即応できる強固な販売ネットワークを確立しています。また、青銅・黄銅製及びステンレス鋼製バルブは、特に高いシェアを確保しています。



### バルブとは

バルブは、配管内の流体(水・空気・石油・ガス等)を流したり、止めたり、流量をコントロールする機能を持つ「流体制御機器」の総称です。

バルブの起源は、紀元前1000年頃の古代エジプト遺跡から発掘された、木製のコックまでさかのぼると言われています。1800年代半ばに紡績用ボイラーが輸入された頃、日本で金属製のバルブが初めて使われました。明治になり、水道事業や都市ガス事業がスタートしたことに伴い、日本でバルブの製造が始まりました。

今日では、上下水道、給湯、ガス、空調等、私たちの身近な生活フィールドから、石油、化学、医薬品、食品等、あらゆる産業分野の生産プロセスに至る様々なパイプに接続され、重要な役割を担っています。私たちは日常生活の中でその存在を意識することはあまりありませんが、バルブは人々の暮らしを陰からしっかりと支えています。



## 伸銅品事業

売上高構成比 **20.2%**

### 強み

#### 長年培ってきた合金技術を活かした新素材開発

バルブの素材となる黄銅棒の製造からスタートした事業です。現在では、マーケットニーズや時代の要請に応え、耐脱亜鉛腐食黄銅棒や鉛レス黄銅棒等、人にも環境にも優しい新素材の開発・販売を積極的に行っています。

## その他

売上高構成比 **1.2%**

### 強み

#### 上諏訪温泉で最大級の規模を誇るホテルを運営

長野県諏訪市の「ホテル紅や」を中心とするサービス関連の事業です。ホテルのほか、中央自動車道(下り)諏訪湖サービスエリア及び上信越自動車道(上り)東部湯の丸サービスエリアも運営しています。